

波賀町不動の滝に

シコクスミレをたずねて

三 木 順 一

揖保川の上流、引原ダムのすぐ南にかの有名な首水・赤西両溪谷が本流にそそいでいる。この両溪谷と並んで次に同じように原始林に包まれた深い溪谷がある。土地の人はカンカ溪と呼んでおり、引原川の合流点は丁度原部落になる。入口から約2キロの所に不動の滝（近時は原の滝とも呼んでいる）と称する立派な滝がある。婦女子でも簡単に往復出来る。観光価値はあり1度は杖ひかれることをお奨めする。

この谷の植物採集の記録をみないので、前年葉だけをみてシコクスミレと思われるものを再確認する為に、筆者は兵庫生物誌上でおなじみの稲田又男氏、福田菊市氏及び小野秀次氏をお誘いして出かけた。

5月1日山崎町から車で丁度1時間、波賀町役場奥谷支所前で降りる。コンクリートの橋を渡る。満開のムラサキケマンがすぐ目につく。3軒目の家の庭にサクラソウが植えてある。昨年咲いていたが、今咲き始めて、この谷の奥に自生地があると教えて頂く。アワブキの大木が蕾を沢山つけている。溪流の橋を渡る。下にオシヤクジデングが見える。人家の前の石垣にクスミレ、ツボスミレが満開である。この谷のクスミレは花は大輪で色も濃い。ノダイオウの群落、満開のヒロハコンロンソウ、美しい黄色のヒメレンゲが溪流沿いにみられる。少し繁みに入るとこの小径にはイカリソウが多い。残念ながら殆ど花は終りに近い。肉色の若芽のシラキ、若芽のヒレアザミもある。やがて林業軌道と合流する。右手の石垣の間や崩土にアカネスミレ、オカスミレが見える。よくみるとオカスミレの方が多し。このアカネスミレは大上氏の播磨植物目録に出ているが、本生物学会で複写印刷したものには存在疑問のマークがついていたが、2、3年前建部氏が引原で採集されているし、同じ頃筆者も神崎郡北部で確認している。ツルウメモドキと想っていたら福田氏にイワウメヅルと教えられる。

軌道は事務所の所で終る。前年この事務所の庭で少し分けて頂いたサクラソウは株も沢山殖えて立派である。お礼をのべて今年はその自生地もたずねたいと言ったところ、もう一株もないときき残念がる。この谷のサクラソウは又波賀町役場のすぐ北の人家の庭に約2米平方ばかり植えているのが車窓からみえる。川辺にはミツバウツギが満開、ホオノキはやつと芽を出したばかり。杉木立の下はオオタチツボスミレの淡青紫

色の花、少し行くと滝への入口の休み堂がある。参詣道はここから滝までジグザクの登りと迷路に似た径になる。

休み堂の附近は原始林の様相で珍らしい。この堂の山側の軒下に待望のシコクスミレが稍満開を過ぎて咲いている。盛んに根を出して株を増しているのが判るし、花も小さい、ツボスミレ程度、少し芳香がある。株は小さいし1株から出ている葉の数も少い大体1—2枚程度、クスミレやシハイスマミレの様にどの株にも花がつかない、株の割に花の数は少い。掘り起しても葉柄も根ももろい、貧弱な苗になる。然し植えると根強く、根をのぼしてよく生育する。筆者の数年のクスミレ採集では播磨ではここ以外では発見出来なかつた。福田氏によれば朝来町にも自生地があるそうだが崩土のため絶滅したといつておられる。（兵庫生物 Vol 3 No. 3 p.111の分）

荷を置いて付近の採集にかかる。クスミレサイシンはもう花が終つている。向う岸の岩壁には咲き始めのヤマグルマの大木、ヒカゲツツジの満開の大木があり立派である。エンレイサウもみえる。稲田氏、福田氏熱心な採集ぶりで、獲物を教えて頂く。

コケシノブ、キヨスミヒメワラビ、シユウモンジシダ、フジシダ、オオフジシダ、イワイタテシダ、シノブカガマ、オンダ、ヤマソテツ、オオキシノオ、ホンバコケシノブ、オオクジヤクシダ、オオキシノオなど、シダはあまり知らない筆者は一度に覚えられない。これらのものが50m程の間に生えている。稲田氏の「兵庫県羊歯植物誌」の中不動の滝とあるのはこの時の採集のものらしい。

参道の密林を登る。この径のナガバナタチツボスミレは茎葉柄などに微毛のあるケナガバナタチツボスミレである。西播の平地ではもう花が終つているが、ここは満開である。シユウモンジシダは沢山ある。シハイスマミレ稀、このシハイスマミレは首水、赤西ではみかけなかつたが、ここでみえたのは珍らしくかつた。クジヤクシダ、タニギキヨウ、イチリンソウが見つかる。岩場にイワタバコ、クジヤクシダ、イカリソウが沢山見られる。なかなか立派な株がある。ヒカゲツツジ、咲き残りのイワウチワが出て来る。

滝の見える岸に出る。昼なお暗い密林、その古木の幹に一面ムギラン、ヨウラクラン、福田氏には珍らしい
(以下357ページへ)